

二十日 磐城時報

編集長 石城郡平野町新屋町十四 印刷所 石城郡平野町新屋町十四 電話 二二二二 発行所 石城郡平野町新屋町十四 電話 二二二二 訂閲料 一月三圓 半年六圓 一年十圓 廣告料 一行一圓 一行二圓 一行三圓 一行四圓 一行五圓 一行六圓 一行七圓 一行八圓 一行九圓 一行十圓 一行十一圓 一行十二圓 一行十三圓 一行十四圓 一行十五圓 一行十六圓 一行十七圓 一行十八圓 一行十九圓 一行二十圓 一行二十一圓 一行二十二圓 一行二十三圓 一行二十四圓 一行二十五圓 一行二十六圓 一行二十七圓 一行二十八圓 一行二十九圓 一行三十圓 一行三十一圓 一行三十二圓 一行三十三圓 一行三十四圓 一行三十五圓 一行三十六圓 一行三十七圓 一行三十八圓 一行三十九圓 一行四十圓 一行四十一圓 一行四十二圓 一行四十三圓 一行四十四圓 一行四十五圓 一行四十六圓 一行四十七圓 一行四十八圓 一行四十九圓 一行五十圓

十日の約束日にも 岡本氏遂に支拂はず

被害十六萬圓を突破し 平附近商人大狼狽 結局破産の申請か

茨城県下で欠損した分を石城郡で理合せやうとして石城郡内郷村磐城炭礦糧食部を引受けた、茨城県土浦町岡本儀兵衛氏は既報の如く商品を仕送りして来た商人に對し支拂をなさざるに至つたため、今日まで品物を送つてゐる十六萬圓の受取分のある平地方商人四十五名は大恐慌を來し、十日に三分の一を支拂ふと岡本氏の言に一縷の望みを抱いてその日を待つてゐるが、十一日になつても何等音沙汰がないので、商人連は目下大狼狽の態で近く協議會を開き岡本儀兵衛氏の破産申請をなすに至るであらうと見られてゐる。被害十六萬圓のうち主なる商人は次の如くその中内郷村小島遠藤米店では七千圓を倒され遂に營業不能に陥つたと傳へられてゐる。

- 一八、〇〇〇圓 内郷村 馬目太平治
- 二〇、〇〇〇圓 平町 馬目 玉彌
- 三〇、〇〇〇圓 湯本 長岡 米店
- 五、〇〇〇圓 釜屋 商店
- 六、〇〇〇圓 大竹 酒店

平町の失業者は 優先的に採用する

來月初旬には着工する 平水道擴張工事

平町三万町民の死を左右する道擴張實現は石城郡内に溢れてゐるとして工事促進を要する。失業者は一大光明を点した。努力が酬はられて既報の如く各方面から工事使用人の申込遂に認可の指令を見るに至つた。者が雪崩を打つて押寄せる現狀なので、町當局は勿論一般町民も、紹介所役員も此應接に面喰小躍りして喜んで居り、町當局では此上は一日も速かに擴張工事を着手せんと来る二十日後に町會を招集して起債に就き借入方法を決定の上起債成立を待つて直ちに着工することとなり準備を進めてゐるが、平町の上水

傾城トンネル 開鑿起工式

常磐線、平間傾城トンネル開鑿の起工式は十二日午前十一時執行した。

道路愛護の寫眞

平土木監督所では十四日から三日間平町元平商業學校庭で道路愛護の活動寫眞會を開催する。

四倉漁業組合視察

石城郡江名濱町漁業組合員等一行十二名は昨十一日江名町漁業組合長代理加澤一造氏及同町組合雇永井水産技師等が四倉町漁業組合の事務視察をなした。

北海道旅行 途上通信

八日午前八時より午後二時まで會議續行、閉會。これで今回の旅行の目的は終つた。主催地の招待にて當地に來る。北海道自慢の景勝地、山高く水清し、谷あり瀧あり、又美人あり、男子一度此地の地に來る、又登山の甲斐あり……と提灯を持つ事斯の如し。

落磐で惨死

湯本町宇傾城居住田村大越村七才位の男が他人の着物を擲入山炭礦坑夫大越源重(二七)にてあるのを不審として署に連取り等の分け藝妓などは更に悲劇團體集となるが、非常に入氣作業者落磐のため惨死した。

平の関を

田卷、長瀬、綿引三君の自轉車旅行 門司市にて

四倉濱の夏職 最高漁獲は稻荷丸

四倉漁業組合調査

石城郡四倉濱に於ける本年度夏鍛冶職給木幸太郎方見習關根文職七月三十一日迄の漁獲高は四夫(十八)假名と言ひ脱衣場を荒さうとしてゐたものであつた。

平花柳界の昨今

不況のドンゾコに沈む

原町通信

開通祝賀團體募集

雇傭員表

石城郡小名濱町海岸で縣社會課長水谷平吉氏、會長近藤節太郎氏等臨席の上第六回表彰式を舉行する。

平花柳界の昨今

藝妓屋の収入は一本四十圓と見て大體二十四圓にしか當つてゐない、かうした状況であるか

原町通信

左をどつた、そこには約十里の差はあるが道は圓滑な海岸地、僕等は先の小梨時でこりこりしてゐる。

此の海水浴場二つを過ぎたところ、其處には久原の製作所がある、大きな石油タンクと並んでそいつが此の自然美にどつしりとおさまつてゐる。一つ此の風緻を破壊する怪物が居る、徳山町近くに此れは有名な海軍の燃料廠だ。コック帽形のしかも素晴しく、いかげつ油槽が無数に首を出してゐるのだ。

### 吉田吳服店 出張賣し

四倉町で大好評 平町銀治町吉田吳服店の出張賣出しは四倉新町鈴木屋旅館隣に於て十二日より三日間開催中である、時節柄といふものの驚く程の大安値賣出しにて敷布大形の二枚組が七十銭より、モス着尺の二圓五十銭や本場銘仙の三圓五十銭から白キヤラコ足袋が二足で十九銭と縮シャツ一枚の二十五銭驚く程の安値である又地下足袋の七十銭も格別の特品であるが、吉田屋吳服店の出張大賣出しは皆優良品揃にて地方民は大喜びで顧客満員の盛況を呈してゐる。

### 後頭部に 茶碗を投げ

坑夫同志の喧嘩 石城郡赤井村大字大平百一番地福島炭礦坑夫柳生三郎(三四)は十日午後三時半頃自宅で友人と飲酒中友人佐々木惣之助(四八)が泥酔して來り兩名の妻同志が兼ねて痴情關係で争つてゐた事が原因で口論となり惣之助は三郎の頭部を毆打したので憤慨した三郎は茶碗を投げつけたのが惣之助後頭に當り全治一週間の重傷を負はせたので平署で取調中である。

### 相馬支局通信

▲自動車好況 近頃の好天に恵まれて相馬各濱海水浴客を運ぶ自動車は全く不景氣知らず頻繁の往復給成りの盛況、殊に原釜往復のものは一日正に二千余圓などあり、降つても儲け、照つても儲け、こゝ暫らく自動車萬能成金。

### 稲の出穂

相馬地方の稲は藁に雨天勝ちの爲め稲病に犯さるゝものありしも其後天候恢復と共に發育良好とな早生は已に出穂を見るに至つた、この順なれば豊作請合。

### 産業組合會

相馬郡各町村農會及信用組合長聯合會は十日中村町南市場に開催、現下の農村對策を協議した。

### 縣參一行検査

縣參事會員出納検査の一行は八日原町の検査を終へて中村町に、九日關係の官術學校の出納検査を行ふた。

### 國調指導講習會

相馬郡原町にては三十七名の國勢調査員に辭令を傳達したるが九日午前九時より同町公會堂に於て指導講習會を開催した、講師は縣統計官。

### 福島中村間 自動車開通

何年か前より福相交通問題がさげばれ一時は福相鐵道を目論見これが實現を遂げようとしたが、今回は自動車道路網を企圖し、この間四十哩の難工事もこの程完成した處、福島電氣鐵道株式會社及トセ自動車店からの申請を許可し十一月より愈々開始する事となり、今迄で岩沼廻り福島市行き汽車によらず沼田にて然も眞野川の溪流を眺めながら安全道路を走り岬々山中郷の用達し、伊達方面に往復が出来るので一船から大に期待されてゐる、因みに乗車賃は

### 平第一校 臨海學校通信

(八月九日) 薄曇の朝の海岸も風情のあるものである。例の朝の體操を終れば、三艘の艦船より水あげされた艦の山を見る。濱の人の聲も一種特別底力のある聲に賣買されてゐる。一山一圓、一圓五十銭の艦「オラ、明日家へお土産に買ふかナ」「明日とれつかな」とも歸る考が出てゐるらしい。

金澤先生が見える。中島寫眞屋さんは昨夕おそく來られてごまられた。そして、一緒に「ヨシ」の海に出る。「平泳ぎ」磯と、水の、紀念寫眞をとる午後、一寸引地先生のお顔が見える。潮はさしかけ、少し荒れ氣味の海に、傳馬船に横田先生の船頭さんで乗りまはる。おやつにキヤメル。

歸ると四倉水産實踐學校の生徒と、先生方の野球戦が開かれた。敵投手のボール物凄く打者杖をならべて打取られるその度敵後援隊の猛烈すぎる程の聲援、戦は吾軍利あらず六回裏まで二点をリードされ、七回裏で俄然七回の表に二点を入れて四對四の對スコーアとなつた。夕間はますます深く、ボールは見えない。眼鏡先生の多い吾軍ますます苦しみ、かくして七回裏に進む。どうも五、四に吾軍は惜敗であつた。敵軍の統整と意氣は十分敬服に値する。夕食終れば最後の茶話會が開かれた。臨海學校の感想、うれしい思ひ出、苦しい、かな

佛國マルソー會社元詰 生葡萄酒 1.10 西村屋藥局

毒校 腸胃 院醫科 村松

銘酒の良 景品付賣出

景品 東京日本橋 白木屋 化粧石 一期間 昭和五年十月卅一日迄

團體には銀バスを!! 是非料金底廉の マツザキタクシー

暑 暑 氷水はイツモ氣持の 藤寅へ

高久病院 内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科

貸切自動車は 乗心持のよい 磐城タクシーへ

皇漢 秘法 肋膜湯 定價一週間分貳圓 小野屋藥店